

平成 30(2018)年度
学生募集用

研究内容一覽

大阪市立大学
大学院医学研究科

目 次

専攻名	大講座名	専門分野名	教授名	研究内容 掲載ページ
基礎医科学 専攻	分子生体医学大講座	分子病態薬理学	富田 修平	1
		分子病態学	徳永 文稔	1
		病態生理学	大谷 直子	1
		機能細胞形態学	池田 一雄	1
		神経生理学	水関 健司	2
		細胞機能制御学	広常 真治	2
		器官構築形態学	中島 裕司	2
		薬効安全性学	三浦 克之	2
	都市医学大講座	分子病理学	鱒渕 英機	3
		産業医学	林 朝茂	3
		公衆衛生学	福島 若葉	3
		運動生体医学	吉川 貴仁	4
		運動環境生理学	—	4
		法医学	石川 隆紀	5
		ウイルス学	—	5
		細菌学	金子 幸弘	5
		寄生虫学	金子 明	6
	老年医科学大講座	免疫制御学	中嶋 弘一	6
		認知症病態学	—	6
臨床医科学 専攻	臓器器官病態内科学大講座	循環器内科学	葭山 稔	7
		呼吸器内科学	平田 一人	7
		肝胆膵病態内科学	河田 則文	7
		消化器内科学	藤原 靖弘	8
		代謝内分泌病態内科学	稲葉 雅章	8
		血液腫瘍制御学	日野 雅之	8
		神経精神医学	井上 幸紀	9
		神経内科学	伊藤 義彰	9
	病理診断・生体機能管理医学 大講座	放射線診断学・IVR学	三木 幸雄	9
		放射線腫瘍学		
		核医学	—	9
		診断病理・病理病態学	大澤 政彦	10
		麻酔科学	西川 精宣	10
		救急医学	溝端 康光	10
	泌尿生殖・発達医学大講座	女性生涯医学	古山 将康	10
		女性病態医学	角 俊幸	11
		発達小児医学	新宅 治夫	11
		泌尿器病態学	仲谷 達也	11
	外科学大講座	腫瘍外科学	大平 雅一	12
		心臓血管外科学	柴田 利彦	12
	感覚・運動機能医学大講座	皮膚病態学	鶴田 大輔	12
		視覚病態学	白木 邦彦	12
		耳鼻咽喉病態学	井口 広義	13
		脳神経外科学	大畑 建治	13
		整形外科学	中村 博亮	13
		形成外科学	元村 尚嗣	13
	医療管理医学大講座	総合医学教育学	首藤 太一	14
		臨床感染制御学	掛屋 弘	14
		医療統計学	新谷 歩	14

研究内容一覧

分野名	教授名	研究内容
分子病態薬理学	富田 修平	<p>本研究室では、細胞外環境に対する生体応答・生体防御システムに関わる分子機序の解明および関連疾患に対する治療への応用を目指している。とりわけ循環代謝疾患やがん病態に伴う血管や組織のリモデリング形成および進展機序の解明を通して、疾患予防および治療を目的とした分子生物学的検討を行っている。また、機能プロテオミクスによる薬物治療の標的分子の探索、循環代謝疾患やがんの治療薬に対する生体反応の包括的な解析を行っている。</p> <p>連絡先：06-6645-3731 Email: tomita.shuhei@med.osaka-cu.ac.jp</p>
分子病態学	徳永 文穂	<p>当研究室では、炎症や免疫応答に重要なシグナル伝達経路の基礎医化学解析と疾患との関連の解明を目指して、下記課題について研究を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 直鎖状ユビキチン化を介した炎症・免疫シグナル制御と疾患の解明 2) 新規 NF-κB 制御因子の同定と機能解析 3) 脱ユビキチン化酵素の炎症・免疫制御や選択的オートファジーにおける役割 4) 創薬を目指した新規 NF-κB シグナル制御性化合物の探索と生理機能解析 5) 分類不能型免疫不全症原因遺伝子の解析 <p>連絡先：06-6645-3720 Email: ftokunaga@med.osaka-cu.ac.jp</p>
病態生理学	大谷 直子	<p>正常な哺乳動物細胞には、異常な細胞の増殖を防ぐための様々な恒常性維持機構が備わっている。当研究室ではこのような恒常性維持機構のひとつ、不可逆的細胞増殖停止現象「細胞老化」に着目している。細胞老化を起こした細胞は生体内で長期間生存し続け、次第に炎症性サイトカインやケモカイン、細胞外マトリクス分解酵素など、炎症や発がんを促進する様々な因子を分泌する Senescence-associated Secretory Phenotype (SASP) と呼ばれる現象を起こすことが近年明らかになった。当研究室では、生体における SASP 現象の役割や機能について、様々な角度から、分子細胞レベル、そして個体レベルで検証し、SASP が関与する病態の治療法、予防法の開発につなげることを目指している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腸内細菌代謝物による肝星細胞の細胞老化・SASP の誘導機構と組織微小環境における役割解明。 2) オルガノイド培養を用いた SASP 環境の 3 次元構築とその機能解析 3) 運動による肝がんの予防効果の分子生物学的解明 4) SASP 現象に着目した個体老化の分子機構の解明 <p>Email: ohtani.naoko.med.osaka-cu.ac.jp, Tel: 06-6645-3711</p>

機能細胞形態学	池田 一雄	<p>我々の教室では、肝臓の発生、炎症と再生、線維化に関する研究を行っている。現時点では、主に下記のテーマについて研究を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臓器線維症、特に肝線維化、肝硬変と肝星細胞の関連について 2) 肝臓発生過程における肝実質細胞と間葉系細胞の相互作用に関する研究 3) 薬物誘発性肝炎の分子機序解析 4) 細胞移植による肝線維化治療 <p>連絡先：06-6645-3701 E-mail: ikeda@med.osaka-cu.ac.jp</p>
神経生理学	水関 健司	<p>我々は記憶のメカニズムを神経回路レベルで明らかにしようとしている。具体的には、行動中のマウスとラットを用いて多点同時細胞外記録法・オプトジェネティクス・心理学の手法を組み合わせることにより、海馬とその関連領域が情報を処理・伝達・貯蓄・検索するメカニズムを神経回路レベルで理解することを目指している。</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/physiology2/index.html E-mail: mizuseki.kenji@med.osaka-cu.ac.jp</p>
細胞機能制御学	広常 真治	<p>我々の研究室では</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 神経細胞走のメカニズムの解明 ② 細胞極性細胞間接着を中心とした形態形成の分子機構の解明を行っている。 <p>特にこれらのためにノックアウトマウスを用いた固体レベルでの遺伝子の機能を重視している。これらを発展させ将来は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高次脳機能障害の原因遺伝子の解明 2) 骨粗鬆症やの胞腎の治療法の開発 <p>を目指している。我々は志しを持った人材の育成につとめ新しい時代の担い手として自立できる研究者を一人でも世に輩出したいと考えている。</p> <p>連絡先：06-6645-3726</p>
器官構築形態学	中島 裕司	<p>初期発生、器官形成、組織修復と再生における分子細胞メカニズムについて小型魚類（ゼブラフィッシュ）、鳥類、マウス胚を用いて形態学、分子細胞生物学的手法を用いて解析を行っています。研究活動を通して国際的に活躍できる自立した研究者の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心臓血管形成とその発生異常(congenital anomaly)のメカニズム 2) 胚心筋傷害の再生と修復のメカニズム 3) 原腸形成における細胞移動と細胞分化のメカニズム <p>詳細は器官構築形態学のホームページをご覧ください。 http://www.med.osaka-cu.ac.jp/organic/</p>
薬効安全性学	三浦 克之	<p>本研究室では腎の臓器障害や抗がん剤耐性の分子機構を明らかにすることで、病態理解や治療を目的とした分子生物学的研究を進めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎間質線維化に伴う尿細管間質の炎症に対する治療戦略 2) 新規の抗がん剤耐性因子を標的とした治療戦略 <p>連絡先：06-6645-3787</p>

分子病理学	鰐渕 英機	<p>我々の教室では発がんをテーマのキーワードとして、下記の課題についての研究を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 発がん物質の閾値 2) 新規化学物質の発がん性の早期検出モデルの確立 3) 新規がん予防物質の開発 4) 砒素化合物の発がん性の証明 5) チェルノブイリ原子力発電所事故後の汚染地域の発がん性 6) 発がん性機序の解明 <p>当教室では病理学を基盤にして、分子生物学的手法を駆使して上記の課題に取り組んでいる。そのため、研究室では免疫組織標本を作製し、イメージアナライザを用いて定量的にデータを解析していると同時に、DNA シークエンサーがうなりを挙げて作動し、遺伝子変異の解析に取り組んでいる。</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/pathology/ 連絡先：06-6645-3737</p>
産業医学	林 朝茂	<p>当教室は労働衛生におけるメインテーマである生活習慣病対策の疫学研究を行っている。今まで、職域の大規模前向きコホート研究から多くのエビデンスを発信してきている。</p> <p>「職域を中心とした生活習慣病の大規模疫学研究」では、1万人規模の大規模前向きコホート研究として、生活習慣病、特に2型糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病、脂質異常症などの疫学研究を行っている。国際共同研究としては2型糖尿病の疫学研究として世界的に有名な「米国日系人糖尿病研究 The Japanese-American Community Diabetes Study」をワシントン州立大学の研究チームと実施している。また、産業医学分野の人間ドックを利用し「腹部内臓脂肪を中心に脂肪分布と生活習慣病の関係（米国日系人糖尿病研究の発展版）」に関する疫学研究を行っている。</p> <p>これらの疫学研究を実施することで、国際的に通用する疫学研究のスキルの習得を目指す。研究スキルを習得した上で、専門分野でのコホートの立ち上げなど疫学研究の実施を指導する。</p> <p>また、博士課程の医師は、社会医学系専門医研修「大阪市立大学社会医学系専門医研修プログラム」の専攻医になることができる。</p> <p>連絡先：06-6645-3751 E-mail：preventive@med.osaka-cu.ac.jp</p>
公衆衛生学	福島 若葉	<p>人集団を対象に、以下の疫学研究を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予防接種・ワクチンの有効性・安全性・免疫原性 (季節性・新型インフルエンザ、肺炎球菌感染症、百日咳、ポリオ、ヒトパピローマウイルス感染症) 2) 予防接種施策推進に必要な疾病負担の評価 (妊婦と季節性インフルエンザ、手足口病、ノロウイルス感染症) 3) 難病の頻度分布、および発生要因の解明 (特発性大腿骨頭壊死症、難治性炎症性腸管障害、門脈血行異常症) <p style="text-align: right;">(次ページに続く)</p>

公衆衛生学	福島 若葉	<p style="text-align: right;">(前ページから続く)</p> <p>4) 肝炎・肝がん、慢性肝疾患の関連因子 5) ロコモティブシンドロームの関連因子 (変形性膝関節症、変形性股関節症) 6) 地域に密着した健康格差研究 (格差との関連：健診・検診の受診行動、心血管疾患の危険因子、歯科疾患)</p> <p>また、博士課程の医師は、社会医学系専門医研修「大阪市立大学社会医学系専門医研修プログラム」の専攻医になることができる。</p> <p>連絡先：06-6645-3756 E-mail：epidemiol@med.osaka-cu.ac.jp</p>
運動生体医学	吉川 貴仁	<p>本教室の目指す『運動・生活習慣医学』では、内科医・スポーツドクターである教授を中心に、基礎的な生命科学とヒトの臨床実地を繋げるためのトランスレーショナルな研究を目指しています。具体的には、あらゆる世代の患者・疾患予備群の方々からアスリートに至るまで、健康支援・疾患の治療・予防、及び競技力の向上に貢献するため、以下の研究を行っています。</p> <p>1) 運動と食習慣の関係 (食欲の無意識的・本能的側面と身体活動との関係) 食に関する各種の感覚刺激に伴う脳活動を、脳磁図などの脳機能イメージング法や質問紙を用いて解析し、『意識的には抗いがたい食欲』の根源を探り、身体活動との関係を調べています (食一動 - 脳連関)。</p> <p>2) 運動が変える多臓器連関 (特に、脳と消化管、筋肉との関係) 各臓器間で構築されるホルモン・サイトカインネットワークが運動により受ける影響とその運動療法への応用の可能性を調べています。</p> <p>3) 運動と加齢の関係 (ヒトの心身の自然な経年変化に及ぼす運動の影響) 近隣の府・市の中・高齢者共同研究、体力測定や運動介入、認知症対策、高齢者における食と運動の問題に取り組んでいます。このほか、他の診療科や文・理系の他学部、他大学との共同研究及び産学連携に基づく運動医学研究も実践しております。</p> <p>ホームページ： http://www.med.osaka-cu.ac.jp/sportsmed/ 連絡先：06-6645-3790 Email：wsports@med.osaka-cu.ac.jp</p>
運動環境生理学		<p>本教室は、生命科学の立場から種々の環境における環境適応機構を究明することにより、現代の都市社会が抱える健康、体力、労働、スポーツ等に関する諸問題を解決し、より積極的な生活習慣 (Active Living throughout Life) の向上を目指した研究を行っている。</p> <p>1) 種々の環境下 (暑熱、寒冷、低酸素、水中) における安静・運動時の体温調節機構、筋活動、代謝、体液バランスなどに関する研究 2) 都市環境下における熱中症予防に関する研究 3) 市民およびエリートスポーツ選手の運動パフォーマンス向上に関する研究 4) 市民の健康寿命延伸のための運動方法に関する研究</p> <p>連絡先：06-6645-3787 (薬効安全性学)</p>

法医学	石川 隆紀	<p>法医学は実務を中心とした実践的医学領域の1つである。種々の外因死や突然死などの法医解剖例や賠償医学的鑑定例などを対象として、客観的な死因・障害の診断方法の開発や傷病の発生要因の分析などに関する基礎的および実務的研究を行っている。</p> <p>1) 解剖所見の客観的評価のための指標の確立 (剖検データの統計学分析)</p> <p>2) 死因診断および生存時間推定のための生化学的指標の確立:</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 臨床一般検査の応用 ② 中枢神経系におけるストレス蛋白の発現 (免疫組織化学的検討) ③ 肺サーファクタントの病態 (免疫組織化学および分子生化学的検討) ④ 虚血関連因子の発現 (免疫組織化学および分子生化学的検討) ⑤ 心筋傷害マーカーの解析 (免疫組織化学および生化学的検討) ⑥ 法中毒学的分析法の開発 (機器分析) ⑦ 死後画像検査 <p>3) 外傷性ストレス強度の客観的評価のための診断基準の確立</p> <p>4) その他</p> <p>基礎的な病理解剖学・生化学・生理学、免疫染色や分子生化学の応用、症例分析に至るまで、様々な方法で研究に関わることができる。</p> <p>ホームページ: http://www.med.osaka-cu.ac.jp/legalmed/</p> <p>連絡先: 06-6645-3765</p>
ウイルス学		<p>本研究室では麻疹ウイルスとその脳内変異株である亜急性硬化性全脳炎 (subacute sclerosing panencephalitis:SSPE) 株の病原性発現機構の解析および非細菌性胃腸炎の原因となるノロウイルス流行の分子疫学的解析を進めている。</p> <p>1) SSPE 発症に伴う麻疹ウイルス脳内変異機構の解析</p> <p>2) 麻疹ウイルスおよびその脳内変異株である SSPE 株の新規エントリーリセプターの検索</p> <p>3) SSPE ウイルスの神経病原性発現機構の解析</p> <p>4) 麻疹ウイルス病原性発現に対する発熱の役割</p> <p>5) 麻疹に伴う巨細胞肺炎の発症機構の解析</p> <p>6) ノロウイルスの分子疫学的研究</p> <p>連絡先: 06-6645-3746 (細菌学)</p>
細菌学	金子 幸弘	<p>本研究室では、基礎研究および臨床支援として以下の研究を実施している。</p> <p>基礎研究</p> <p>1) 液性免疫を主体とした新規抗結核ワクチンの開発</p> <p>2) 潜在性結核・活動性結核・陈旧性結核の鑑別に有効な新規血清診断法の開発</p> <p>3) ヒト型結核菌及び非定型抗酸菌の迅速遺伝子診断法の研究</p> <p>4) 結核菌や非結核性抗酸菌の薬剤耐性メカニズム</p> <p>5) 日和見感染菌の細胞間コミュニケーションと病原性</p> <p>6) 接合菌感染症の新規診断法の開発</p> <p>7) ブドウ糖非発酵菌の病原性および耐性メカニズムの解明</p> <p>8) 難診断性真菌感染症の病態解析と臨床支援</p> <p>9) 同定困難な細菌および真菌の遺伝子検査</p> <p>連絡先: 06-6645-3746</p> <p>メール: ykaneko@med.osaka-cu.ac.jp</p>

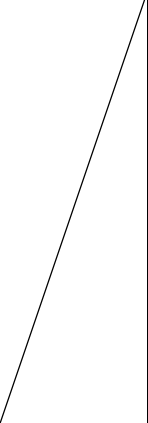
<p>寄生虫学</p>	<p>金子 明</p>	<p>本研究室は、Global Health の観点から 21 世紀に人類が対峙しているマラリア根絶に寄与することを究極の目標に掲げる。アフリカ、アジア・太平洋等の流行地におけるマラリア感染者および集団を対象として伝播、治療、および対策について臨床寄生虫学、疫学、生態学、臨床薬理学、細胞生物学、臨床免疫学、集団遺伝学等の多角的な方法論により以下の研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ケニア、ビクトリア湖マラリア流行島嶼におけるマラリア根絶可能性 2) 南太平洋ヴァヌアツ島嶼におけるマラリア撲滅長期的維持可能性 3) 三日熱マラリア再発メカニズムおよび新規制御法の開発 4) 抗マラリア化学療法剤アルテシニン治療効果にかかわる患者、原虫の遺伝学的多型 5) パプア・ニューギニア、ヴァヌアツの島嶼マラリアモデルにおける人、原虫、媒介蚊の共進化 <p>連絡先：06-6645-3760 Email : akira555@med.osaka-cu.ac.jp</p>
<p>免疫制御学</p>	<p>中嶋 弘一</p>	<p>本講座では、細胞外シグナルによる細胞増殖分化決定のしくみや膜から転写までの細胞内シグナル伝達様式とその制御機構の解明を行い、これら知見をもとにがんや免疫疾患の新規治療戦略の考案を行う。とくに IL-6 などのサイトカインシグナルの『細胞膜から転写まで』の解明を様々な分子生物学的技法やプロテオミクス手法などを駆使して研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) サイトカインシグナルの核内標的蛋白群の同定と役割の解明 2) シグナル伝達性転写因子 STAT3 による転写開始と伸長機序の解明 3) IL-6 や IL-4 シグナル『膜から転写』までに関わる機能分子群探索のための新規遺伝学的スクリーニング法の開発と応用 4) プロテオミクス技法を駆使した細胞内シグナル蛋白複合体に含まれる蛋白群の同定と機能解析 <p>ホームページ : http://www.med.osaka-cu.ac.jp/immune/ 連絡先 : 06-6645-3900</p>
<p>認知症病態学</p>		<p>本講座では、①アルツハイマー病の発症分子機構の解明②神経細胞の発生、移動、成熟③遺伝的、非遺伝的細胞変性と細胞死を中心に研究をすすめている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アミロイド蛋白の異常代謝と生理活性に関する解析 2) タウ蛋白遺伝子のスプライシング異常による細胞生物学的検討 3) 家族性痴呆症における原因遺伝子 (APP、PS1、PS2、タウ) の変異同定と病因解明 4) ニューロンならびに神経回路の発生・再生の基礎生物学的研究 5) 変性疾患および外傷による脳障害修復機構の基礎的解析 <p>主な実験手法として遺伝子工学を中心に、細胞生物学、生化学、免疫組織学、発生生物学、蛍光顕微鏡観察をする。病態モデルとしての受精卵への DNA 注入による遺伝子改変マウス作製も実施している。論文紹介、プログレスレポートに加え、基礎勉強会を実施し、研究能力の育成と向上を心がけている。</p> <p>ホームページ : http://www.med.osaka-cu.ac.jp/Neurosci/ 連絡先 : 06-6645-3925 (遺伝子制御学)</p>

臨床医科学専攻

研究内容一覧

分野名	教授名	研究内容
循環器内科学	葭山 稔	1) 心筋梗塞・狭心症の病態と治療の研究 2) 心不全、心筋症、弁膜症の病態研究 3) 心エコー図、シンチ、心臓 CT、MRI、PET による画像診断学の最新の研究 4) 高血圧、動脈硬化、大動脈疾患、末梢血管病変の研究 5) 再生医療の研究 6) 血管インターベンションの最新研究 7) 循環器疾患に対する薬物治療の研究 8) 膠原病疾患の研究 連絡先：06-6645-3801 ホームページ： http://www.med.osaka-cu.ac.jp/heart/
呼吸器内科学	平田 一人	1) 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態と治療の研究 2) 肺癌の早期診断と治療の研究 3) 慢性呼吸不全の病態と治療の研究 4) 肺高血圧症の病態と治療の研究 5) 慢性咳嗽の病態と治療の研究 6) 呼吸器感染症の診断と治療の研究 7) 間質性肺疾患の診断と治療の研究 連絡先：06-6645-3995
肝胆膵病態内科学	河田 則文	本講座では、肝臓の病態生理と分子細胞生物学的解析、ウイルス性及び自己免疫性慢性肝疾患の診断と治療、肝胆膵癌の診断と治療などを、基礎と臨床にまたがり研究しています。 【慢性肝疾患の臨床研究】 1) B 型肝炎に対する核酸アナログおよびインターフェロン治療 2) C 型慢性肝疾患に対する直性作動型抗ウイルス薬（DAA）治療 3) 原発性胆汁性胆管炎や自己免疫性肝炎の遺伝子変異 【癌の臨床】 1) 肝癌に対する局所治療（経皮的および腹腔鏡的治療） 2) 抗ウイルス治療による肝発癌抑制 3) 進行肝癌、胆道癌や膵癌に対する化学療法工夫 4) 膵癌の早期診断 【メタボリック症候群と肝臓】 1) 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の基礎的病態解析 2) 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の診断法と治療法の開発 【肝臓細胞社会学】 1) 肝類洞壁細胞の研究 2) 肝星細胞と肝線維化の研究 ホームページ： http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/

<p>消化器内科学</p>	<p>藤原 靖弘</p>	<p>消化器病学の基礎的研究と消化器内科分野の臨床研究・治療法の開発を主なテーマとしています。基礎的研究としては消化管粘膜の防御機構およびその傷害機構の病態生理の解明を主たる研究テーマとしています。また、臨床研究においては、内視鏡センターと有機的な連携のもとで進めています。</p> <p>【上部消化管分野】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 消化管粘膜傷害の機序解明と治療 2) 消化管機能異常の機序解明と治療 3) 消化管発癌の機序と制御に関する基礎的研究と臨床応用 <p>【下部消化管分野】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特発性炎症性腸疾患の粘膜免疫学的病因解明 2) 特発性炎症性腸疾患の病態生理機序に基づく新たな治療の開発 3) 炎症性発癌の実態と制御 <p>【内視鏡分野】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 内視鏡下治療の適応拡大 2) 小腸出血の診断と治療 <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/syoukaki/</p>
<p>代謝内分泌病態内科学</p>	<p>稲葉 雅章</p>	<p>本講座では①糖尿病などの代謝異常・内分泌疾患をはじめとし、骨の変性疾患なども含めた広汎な疾患における代謝異常とその対策に関して基礎面と臨床面の両方からの検討、②関節リウマチ(RA)における血管障害や軟骨新生に関する検討を中心にして研究を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病・内分泌疾患における動脈硬化の進展に関する臨床的研究 2) 糖尿病・内分泌疾患・RAでの動脈硬化の進展とその機序に関する研究 3) 血管新生機構に関する研究 4) 骨・関節疾患における骨代謝異常 5) 慢性腎不全での骨代謝異常および遺伝子レベルの進展における役割 6) 実験手法は遺伝子工学・分子生物学・細胞生物学を用いて行っている。臨床研究は、生化学的測定、bioassay,SNIPなどを用いて行っている。研究指導は教官および学位取得上級生からなるチームで行い、自身で研究計画を立案・遂行のできる研究者の養成を目指している。 <p>連絡先：06-6645-3806</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interm2/</p>
<p>血液腫瘍制御学</p>	<p>日野 雅之</p>	<p>本講座では、造血機構、造血器悪性腫瘍、造血幹細胞移植に関する基礎研究、臨床研究と診断検査法の開発を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 造血幹細胞移植に関する臨床研究 2) 造血幹細胞移植に関する基礎研究 3) 抗癌剤の副作用の克服に関する研究 4) 造血器悪性腫瘍の治療戦略に関する研究 5) 新しい診断・効果判定方法の確立の研究 <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/labmed/</p> <p>連絡先：06-6645-3881</p>

<p>神経精神医学</p>	<p>井上 幸紀</p>	<p>神経精神疾患の臨床的、および基礎的な研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職域のメンタルヘルスの一次予防から三次予防 2) 様々なストレスと疾病の関連 3) 児童青年期精神医学 4) インターネット依存症 5) 摂食障害(神経性食思不振症、神経性過食症) 6) 認知症、脳血管性うつ病 7) リエゾン精神医学、緩和医療 8) 画像研究 9) 精神療法・薬物療法・mECTなどの治療研究 <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/neuropsych/</p>
<p>神経内科学</p>	<p>伊藤 義彰</p>	<p>神経内科領域の臨床研究、基礎研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神経変性疾患：アルツハイマー病、パーキンソン病 <ul style="list-style-type: none"> ・アミロイド、タウのPETイメージング ・新規認知症薬の臨床応用 ・バイオマーカの開発 2) 虚血性脳血管障害 <ul style="list-style-type: none"> ・脳塞栓症モデルマウス ・微小循環障害 3) Neurovascular Unit から見た神経疾患の研究 4) 末梢神経疾患、筋疾患、接合部疾患の電気生理学的研究 5) 多発性硬化症などの脱髄疾患の脳磁図を用いた解析 <p>教室HP http://www.med.osaka-cu.ac.jp/Neurology/index.html 問い合わせ neurology@med.osaka-cu.ac.jp</p>
<p>放射線診断学・IVR学 放射線腫瘍学</p>	<p>三木 幸雄</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 画像診断の向上に関する研究 2) 画像診断機器を用いた病態解析の研究 3) 画像検査技術の改良と開発に関する研究 4) 血管造影技術の向上に関する研究 5) 画像下治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）に関する研究 6) 高精度放射線治療の開発に関する研究 7) 放射線治療の治療効果の向上に関する研究 8) 医用画像情報システムの改良と開発に関する研究 <p>連絡先：06-6645-3831</p>
<p>核医学</p>		<p>本講座では主として核医学を用いた種々の研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腫瘍診断・脳疾患・骨・関節疾患における核医学を用いた研究 2) 核医学治療における臨床研究 3) 消化器疾患における核医学を用いた研究 4) PETを用いた脳疾患・腫瘍・骨・関節疾患の研究 5) 画像診断におけるネットワーク活用の研究 <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/nucmed/ ブログ：http://ocunm.blogspot.jp/ 連絡先：06-6645-3885 メールアドレス asahimachinm@gmail.com</p>

診断病理・病理病態学	大澤 政彦	<p>1) 悪性リンパ腫における新しいバイオマーカーに関する研究 2) 悪性リンパ腫発症要因に関する、臨床病理学的、分子病理学的研究 3) 腫瘍の発症、増殖、進展に関係する微小環境因子の検討 4) 膵腫瘍における新しいバイオマーカーに関する研究 5) ヒト動脈硬化の発症・進展メカニズムの解明 6) ヒトにおける酸化 LDL の動態と酸化・抗酸化バランスの研究 7) 動脈硬化性プラークの不安定化メカニズムの研究</p> <p>連絡先：06-6645-2225</p>
麻酔科学	西川 精宣	<p>生体反応を、分子レベルでの反応から一全体全体の変化にわたって解析し、麻酔のメカニズム、慢性痛発生のメカニズムとその病態の解析を行う。</p> <p>1) 麻酔薬の代謝と体内薬物動態 2) 分子薬理学的手法を用いた麻酔薬や鎮痛薬の作用機序の解明 3) 麻酔薬の急性毒性に対する治療の作用機序解明 4) 慢性痛と脳脊髄モノアミン動態の解明 5) 慢性痛と心筋虚血再灌流障害予防の関連</p> <p>これらの研究を臨床医学へ応用することを常に心がけている。さらに、</p> <p>6) 手術後の予後予測因子としてのモニタリング指標の探索 で、手術予後改善につながる麻酔管理法の開発をめざしている。</p> <p>ホームページ：http://ocu-anesth.jp/ 連絡先：06-6645-2185</p>
救急医学	溝端 康光	<p>本講座は大阪市の第三次救急医療機関として重症救急患者の診療を行うとともに、救急医療体制の整備にも取り組んでおり、救急医療についての臨床的、実践的課題を解明するために以下の研究に取り組んでいる。</p> <p>1) 病院前救護活動の質の改善についての研究 2) 外傷初期診療の標準化が外傷医療の質改善におよぼす効果についての研究 3) 重症外傷の救命率向上のための治療戦略についての研究 4) クモ膜下出血の予後改善についての研究 5) 救急医療におけるチーム医療のあり方についての研究 6) 効果的な災害時医療活動の構築についての研究</p> <p>連絡先：06-6645-3987</p>
女性生涯医学	古山 将康	<p>女性は妊娠、分娩という生物としての重要なイベントを経るため、卵巣機能を中心としてライフスタイルがドラマティックに変化する。女性生涯医学は思春期、生殖期、更年期、老年期の女性の各ライフステージに出現する疾病を連続的に診断・治療を行うのみならず、女性の生涯を通じた Quality of Life を維持する予防医学を实践する医学分野である。「卵から老年期までの女性医学」をテーマに基礎研究、臨床研究を行っている。</p> <p>細胞外マトリックス蛋白欠損による骨盤臓器脱マウスモデルに対する幹細胞治療の試み 骨盤臓器脱手術に対する人工物素材を用いた再建手術の開発 顆粒膜細胞におけるメラトニン受容体を介した排卵調節機能 排卵現象に及ぼす酸化ストレスに関する細胞生物学的解析 妊娠糖尿病発症予防に関与するバイオマーカーの開発 妊娠糖尿病における胎児の innate immunity の確立に関する TLR の関与</p> <p>(次ページに続く)</p>

女性生涯医学	古山 将康	<p style="text-align: right;">(前ページから続く)</p> <p>胎児機能不全時の娩出時期に関する超音波パルスドップラーパラメーターの解析 ノックアウトマウスを用いた生殖現象に影響を及ぼす分子の解明(遺伝制御学との共同研究) 常に臨床への応用を目指したトランスレーショナル研究を企画している。 連絡先: 06-6645-3941 E mail: obandg@med.osaka-cu.ac.jp</p>
女性病態医学	角 俊幸	<p>本講座では、婦人科腫瘍ならびに類腫瘍疾患(子宮内膜症など)に関する基礎または臨床研究をおこなっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科悪性腫瘍の浸潤・転移機構の分子生物学的検討。 2) 癌悪液質の病態について、癌悪液質誘発物質(AIS)の同定と代謝学的形態学的特徴の解明。 3) 婦人科腫瘍と遺伝子多型性との関連。 4) 子宮筋腫および子宮肉腫の発生機序。 5) 婦人科悪性腫瘍の新たなバイオマーカーに関する検討。 6) 子宮内膜症の病態解明と新たな治療法に関する検討。 <p>連絡先: 06-6645-3862</p>
発達小児医学	新宅 治夫	<p>本講座は小児科の臨床的課題解明のために以下の臨床的・基礎的研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖代謝異常症、アミノ酸代謝異常症、リソソーム病の病態とその治療に関する研究 2) 小児糖尿病の発症と治療に関する研究 3) 小児血液疾患・悪性腫瘍の病態とその治療に関する研究 4) 小児神経疾患の病態とその治療に関する研究 5) 小児神経伝達物質病の病態とその治療に関する研究 6) 新生児仮死の再生医療による治療に関する臨床的・基礎的研究 <p>研究手法は臨床的課題について分子生物学、蛋白質化学、形態学、脳磁図等を用いている。 ホームページ: http://medwebsv.med.osaka-cu.au.jp/pediat/ 連絡先: 06-6645-3816</p>
泌尿器病態学	仲谷 達也	<p>本講座では腎・尿路器系の臓器機能と病態と治療について、固体・臓器レベルから遺伝子レベルに至るまでの基礎研究及び臨床研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 免疫抑制剤に起因する急性および慢性腎障害の病態と病因について 2) 移植腎動脈硬化性病変の分子生物学的解析 3) 腎移植における阻血・再灌流障害の病態と予防 4) 腎移植における血管石灰化の臨床研究 5) 透析合併症についての臨床研究 6) 各種アフェレシスにおける臨床研究 7) 尿路上皮での発癌に関する遺伝子解析 8) LOH症候群(男性更年期障害)の診断と治療に関する臨床研究 9) 実験手法は主として分子生物学・遺伝子工学・免疫組織学的手法を、統計学的手法はRやEZRを使用した各種解析手法を用いており、研究指導は教官ならびに関連基礎医学教室とも連携して展開している。 <p>ホームページ: http://www.med.osaka-cu.ac.jp/urology/ 連絡先: 06-6645-3855 E-mail: nakatani@med.osaka-cu.au.jp</p>

腫瘍外科学	大平 雅一	<p>消化器癌、乳癌、甲状腺癌の増殖・進展・転移機序の解明とその制御法の開発に関する基礎的、臨床的研究を行っている。</p> <p>① 消化器癌、乳癌、甲状腺癌の摘出標本ならびに癌細胞株を用いて、遺伝子学的、分子生物学的に癌の増殖、転移に関わる因子の解明とそれに基づいた分子標的治療薬や個別化治療法の開発。</p> <p>② 癌周囲微小環境における癌細胞と線維芽細胞、免疫担当細胞、腹膜中皮、血管、リンパ管内皮細胞などを含む間質細胞との相互作用の解析を行い、癌の進展機序に基づいた新しい治療法の研究、開発。</p> <p>③ 腫瘍関連抗原、がん遺伝子、がん抑制遺伝子の変化に基づいた予後予測因子や抗癌剤感受性予測因子の同定。</p> <p>④ すべての消化器癌、乳癌を対象に、癌の進行度、手術を中心とした癌治療の生体に及ぼす侵襲、癌患者の栄養学的、免疫学的背景と癌患者の予後との関連についての臨床研究。</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/surgical-oncology/ 連絡先：06-6645-3838</p>
心臓血管外科学	柴田 利彦	<p>本講座では、循環器疾患の病態解明や心臓血管手術の成績向上を目指し、外科的診断・治療法、手術補助手段についての基礎的・臨床的研究を行っている。</p> <p>1) 人工心肺による体外循環時の臓器障害発生機序に関する研究 2) 低侵襲開心術に関する研究 3) 医工学連携に基づいた手術器具の開発・評価 4) 3Dバーチャル技術を用いた術中評価 5) 僧帽弁形成術成績向上のための工夫とその臨床的評価</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/cardiosurg/ 連絡先：06-6645-3980</p>
皮膚病態学	鶴田 大輔	<p>本講座では難治性皮膚疾患の病態解明、新規治療法の開発を目指している。</p> <p>1) 自己免疫性水疱症、特に類天疱瘡の発症機序の解明と治療法の開発 2) 毛髪疾患、特に脱毛症の発症機序の解明と治療法の開発 3) 白斑、白皮症の発症機序の解明と治療法の開発 4) アレルギー性皮膚疾患、特にアトピー性皮膚炎の発症機序の解明と治療法の開発</p> <p>実験手法としては Live cell imaging, 遺伝子解析・導入、タンパク解析、細胞生物学的手法、免疫細胞組織学的手法、分子組織学的手法である。国際的な共同研究先として米国ワシントン州立大学、イギリス・マンチェスター大学、国内共同研究先として久留米大学皮膚科、長崎大学組織細胞学がある。</p> <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/Derma/ 連絡先：06-6645-3826 E-mail：dtsuruta@med.osaka-cu.ac.jp</p>
視覚病態学	白木 邦彦	<p>各種眼底疾患における眼循環の解明、加齢に関連した各種眼底変化、血液網膜柵の一端を担う網膜色素上皮の病態を中心に主に臨床的研究を行っている。</p> <p>1) 眼底微小循環における画像解析 2) 脈絡膜微小循環の血流制御 3) レーザー眼科診断学 4) 網膜色素上皮細胞－脈絡膜毛細血管複合体における加齢医学</p> <p>連絡先：06-6645-3867</p>

耳鼻咽喉病態学	井口 広義	<p>本講座では、耳鼻咽喉科全般にわたる様々な疾患の病態解明および治療を目的に、主に臨床的研究を行っている。特に以下の項目に重点を置いている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感音難聴治療に関する研究 2) 小児難聴に関する研究 3) 耳鳴治療に関する研究 4) めまい疾患の治療に関する研究 5) 頭頸部癌治療に関する研究 <p>連絡先：06-6645-3870</p>
脳神経外科学	大畑 建治	<p>本講座では脳神経疾患全般及び脊椎・脊髄疾患に関する基礎・臨床の研究を行っている。特に下記の項目には力を入れている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 頭蓋底腫瘍・脊髄疾患における手術法の開拓 2) 定位放射線外科による脳腫瘍・脳血管障害の基礎・臨床的研究 3) てんかん外科における焦点検索と手術方法の研究 4) 悪性脳腫瘍の新治療法の開発 5) 脳血管内手術による治療法の臨床研究 6) Positron Emission Tomography, Magnetic Encephalogram 等による高次脳機能の研究 <p>連絡先：06-6645-3845</p>
整形外科学	中村 博亮	<p>本講座では、整形外科全般にわたって基礎的・臨床的研究を行っている。研究指導は教官およびそれに準ずるものからなる研究チームで行い、研究のプロトコルの作成、研究手技の習得、そして結果の解析を自分自身で行える研究者の育成を目標としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨形成の基礎的研究 2) 骨粗鬆症の臨床的研究 3) 人工股・膝関節の臨床的・基礎的研究 4) 脊椎外科の臨床的研究 5) 上肢再建外科の臨床的・基礎的研究 6) 骨・軟部腫瘍の基礎的研究 <p>ホームページ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/orthoped/</p> <p>連絡先 06-6645-3851</p>
形成外科学	元村 尚嗣	<p>本講座では、形成外科が取り扱うすべての疾患にわたった基礎的・臨床的研究を行っている。特に、臨床治療に還元することを目指した translational research を念頭に置いた基礎研究 (clinical oriented research) を目標としている。各疾患の病態解明や形成外科再建手術の成績向上を目指し、外科的診断・治療法、手術補助手段についての基礎的・臨床的研究を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) a) 頭頸部癌における臨床研究 <ul style="list-style-type: none"> 上顎再建法における術式の開発 眼窩周囲の再建法の開発 頭頸部癌術後広範囲欠損における術式の開発 b) 頭頸部癌における基礎研究 <ul style="list-style-type: none"> 整容的な評価、すなわち“きれい”を科学的に実証する研究 <ol style="list-style-type: none"> a) 各種デバイスを用いて再建部位の整容性を数値化する。 b) 醜形変形を負った患者に対するソーシャルスキル・トレーニング・マニュアルの作成 <p style="text-align: right;">(次ページに続く)</p>

形成外科学	元村 尚嗣	<p style="text-align: right;">(前ページから続く)</p> <p>2) a) 皮膚悪性腫瘍における臨床研究 Sentinel navigation surgery の導入</p> <p>b) 皮膚悪性腫瘍における基礎研究 悪性黒色腫モデルラットを用いたリンパ節関連実験。 所属リンパ節郭清術が全身に及ぼす影響についての研究</p> <p>3) a) 慢性創傷における臨床研究 慢性創傷における治療戦略</p> <p>b) 慢性創傷における基礎研究 糖尿病・虚血性足潰瘍に対する下肢救済治療法の開発</p> <p>連絡先：06-6645-3892</p>
総合医学教育学	首藤 太一	<p>本講座では、医学教育の理論と実践、ならびにその効果の研究を行っている。卒前教育だけでなく、近年文部科学省が推進する、高校-大学（高大）連携教育に加え、卒後研修教育、専門医や学位取得、さらには生涯におよぶ医学教育全般を対象として、よりよい医学教育のあり方を研究している。</p> <p>連絡先：06-6645-3797</p>
臨床感染制御学	掛屋 弘	<p>本講座は細菌や真菌の基礎研究から、感染症の診断や治療に関する臨床研究まで幅広い研究に取り組んでいます。</p> <p>1) 難治性深在性真菌症の新しい診断法に関する研究</p> <p>2) 深在性真菌症の治療に関する研究</p> <p>3) 細菌感染症の難治化機序に関する研究</p> <p>4) 細菌感染症の新しい治療に関する研究</p> <p>5) 耐性菌の院内伝播抑制に関する研究</p> <p>6) 各種感染症に対する治療薬の適正使用に関する研究</p> <p>連絡先：06-6645-3784</p>
医療統計学	新谷 歩	<p>本教室では臨床研究に関わる統計、研究デザイン、データベースシステムについてコンサルテーションを通して専門的な助言を行い、学内及び学外における臨床研究の支援を行っている。</p> <p>コンサルテーションで支援した研究には教員が共同研究論文に共著者として参画し、国内外の学術誌へ投稿・acceptを目指す。またそれらの成果について関連学会で発表するための支援も行っている。</p> <p>また、学内外において医療統計に関する講義を行い、臨床に関わる統計の基本的な教育を通して臨床研究の質の向上を図っている。</p> <p>連絡先：06-6645-3894</p>

大阪市立大学大学院医学研究科

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/>

TEL : 06-6645-3611